

光合成研究会会報 1991年 第1号 1991年6月20日

| | |
|----------------------------------|---|
| ごあいさつ 西村光雄 | 1 |
| 第9回国際光合成会議について 西村幹夫 | 2 |
| 会議日程 予定 | |
| サテライトミーティングについて | 4 |
| 第9回国際光合成会議個人協賛金拠出のお願い 組織委員会 村田紀夫 | 6 |
| 第11回国際光生物会議について (1992/9/7-12) | 7 |
| あとがき、会費納入のお願い | 7 |
| 日本光合成研究会会則 | 8 |
| 次号の予告 | 9 |

光合成研究会会報 1991年 第1号

1991年6月20日

ごあいさつ

光合成および関連分野の研究者の連絡と研究上の協力を進め、この領域の研究の進展をはかるため、光合成研究会が1979年に結成されて以来、研究会やシンポジウムの主催、共催、協賛などを行ってきたほか、サーキュラーの発行などにより、情報と意見の交換を行ってきました。その間、宮地重遠先生に代表幹事あるいは会長としてお世話いただきました。

本年3月に光合成研究会の会長選挙が行なわれ、1991年 - 1992年の会長として西村が選出されました。それに伴い、事務局を九州大学 理学部 生物学教室 植物生理学講座に移すことになりました。十分な活動ができるかどうか自信がありませんが、上記の目的の一端でも達成するため、会員の皆様のご援助とご助言をお願いいたします。

この会の当面の活動としてはニューズレターとして光合成研究会会報を随時発行するつもりであります。本会主催の研究会やシンポジウムなどは今のところ計画されておりませんが、適当な企画には主催あるいは共催などのかたちをとらせていただきたいと思いますので、ご提案いただければ幸いです。

日本の光合成研究の活発な活動の反映として1992年には名古屋市内で第9回国際光合成会議が開催されることになりましたことをご承知のことと思いますが、これに関する情報やサテライト・ミーティングについても情報を流していきたいと考えています。

会報によって光合成研究者間の連絡を密にし、研究協力のお手伝いなどいたしたいと思いますが、このニューズレターは堅苦しいものではありませんので、公式・非公式の会合の案内、研究や研究費(!!!)についての情報、提案、意見交換、広告などを歓迎します。刊行の頻度や各号のページ数などは原稿の集まりかた、当方の時間、会の経理状態などによって予測できませんが、なるべく印刷経費などは節約して、頻繁に発行し、気軽に利用していただきたいと思います。お送りいただく原稿が長い(原稿用紙2枚以上)場合には紙に打ち出したものに文書ディスクを添えていただければ助かります(入力のための人手が不足していますので)。PC-9801で扱えるMS-DOSテキスト・ファイルか、松、一郎郎などのかたちのディスクであれば、3, 5, 8インチいずれでも構いません。

会の運営のために岡山繁樹氏(九州大学教養部)と高宮建一郎氏(東京工業大学生命理工学部)に幹事をお願いし、ご快諾を得ましたので、3人で協議して運営を進めたいと考えています。また、日本光生物学協会への本会からの委員としては加藤哲也氏(京都大学理学部)に引き続きお願いすることにいたしました。

この会の運営のためには会員の皆様にあまりご負担をかけずにすむよう努力しますが、年会費として1000円をおねがいいたします。1989年以降の会費が未納になっておられる方は下記に郵便振替でご送金いただければ幸いです。

福岡 4-69648 光合成研究会

最後になりましたが、12年間にわたって光合成研究会のためご尽力いただいた初代会長宮地重遠、歴代の幹事(加藤 栄、藤田善彦、金井龍二)の諸先生に感謝いたします。また、今回の事務局の移動に際しては東大応微研の都筑幹夫先生にとりわけお世話になりましたことにお礼を申し上げます。

西村光雄

第9回国際光合成会議 (The 9th International Congress on Photosynthesis)
について

第9回国際光合成会議は、日本学術会議と日本植物生理学会の共同主催により、1992年8月30日 - 9月4日に名古屋国際会議場で開催されます。光合成研究会会員の皆様にも当国際会議の準備に御尽力いただき、有難うございます。以下に準備状況、予定等を御報告いたします。

当国際会議では、プレナリー講演 8 演題、シンポジウム 26 項目 104 演題、ポスター発表約 1,000 件で、約 1500 名の参加 (うち外国人約 750 名) を予定しています。また 9 月 5 日には一般市民むけの公開講演会も予定されています。

本会議の中核をなすシンポジウムに関しては、プログラム委員会を中心として検討され、下に示す 26 項目が 5 日間にわたって行なわれることになりました(表 1)。また 5 つのサテライトミーティングが企画されています(表 2)。講師の選定等が現在鋭意進行中です。これらの情報を含んだセカンドサーキュラーが、7 月中に完成する予定です。希望者は下記にご連絡下さい。

当国際会議に向けての今後の予定は表 3 のようになっています。折に触れて、その準備状況をお知らせしますので宜しく御協力いただきますようお願い申し上げます。

連絡先

第9回国際光合成会議組織委員長 村田紀夫
444 岡崎市 明大寺町 西郷中 38 基礎生物学研究
TEL/FAX (兼用) 0564-54-4866

(文責 基生研 西村幹夫)

表1 シンポジウム項目

8月31日 (月)

- S.1: Antenna system in photosynthetic prokaryotes
- S.9: Chemical models and artificial photosynthesis
- S.12: Expression of plastidic genes
- S.18: Specialization in carbon assimilation
- S.23: Photoinhibition

9月1日 (火)

- S.3: Bacterial reaction center
- S.6: Oxygen evolution
- S.11: Protein import
- S.22: Light acclimation
- S.25: Photosynthesis control by sink

9月2日 (水)

- S.2: Antenna system in green plants
- S.7: Electron transport system
- S.15: Design and action of herbicides
- S.17: Carbon assimilation
- S.20: Temperature stress

9月3日 (木)

- S.5: Photosystem II
- S.10: Membrane components: Lipids and pigments
- S.13: Genetic approaches in photosynthesis research
- S.19: Nitrogen and sulfur metabolism
- S.24: Photosynthesis in intact leaf

9月4日 (金)

- S.4: Photosystem I
- S.8: Energy transduction
- S.14: Evolution of photosynthesis
- S.16: Rubisco
- S.21: Water and salt stress
- S.26: Photosynthesis and global climate change

表2 サテライト ミーティング

Molecular Regulation of Chloroplast Functions -- for Future Herbicides

日 程: 1992年8月26日 - 28日

場 所: 大宮ソニックシティ

予定講演者数: 40

連絡先: 井上頼直, 吉田茂男 (理研)

Environmental Stress and Regulation of Carbon Metabolism

日 程: 1992年9月5日 - 7日

場 所: 大阪商工会議所 賢島研修センター

予定講演者数: 40

連絡先: 白田秀明 (帝京大) [別掲記事参照]

Molecular Structure and Regulation of Photosynthetic Pigment Systems

日 程: 1992年8月27日 - 30日

場 所: 関西学院大学セミナーハウス (兵庫県 三田市)

予定参加者数: 100名以内

連絡先: 高宮建一郎 (東工大), 三室 守 (基生研) [別掲記事参照]

Photosynthetic Responses to the Environment

日 程: 1992年8月25日 - 27日

場 所: Kona, Hawaii

予定講演者数: 20

連絡先: Harry Yamamoto (Univ. of Hawaii)

Molecular Mechanism of Nitrate Assimilation in Plants

日 程: 1992年8月28日 - 29日

場 所: 名古屋周辺

予定参加者数: 30

連絡先: 大森正之 (東大海洋研) / 杉山達夫 (名大) [別掲記事参照]

表3 今後の予定

- 1991年4月 プログラム案 (セカンドサーキュラー用)
5月 組織委員会
セカンドサーキュラー請求最終集計
7月 セカンドサーキュラー配布
8月 ポスター配布
11月 組織委員会
- 1992年3月 ポスター発表申込締切
組織委員会
5月 登録締切
サードサーキュラー配布
プロシーディングズ発表用紙配布
6月 プログラム最終案
アブストラクト締切
8月 国際会議
プロシーディングズ原稿締切
12月 プロシーディングズ刊行

個々のサテライト・ミーティングについてのより詳しいお知らせ

Environmental Stress and Regulation of Carbon Metabolism

日 程：1992年9月5日 - 7日

場 所：大阪商工会議所 賢島研修センター

予定講演者数：40

連絡先：白田秀明

192-03 八王子市 大塚 359 帝京大学 医学部

Tel 0426-76-8211 ex 252, Fax 0426-74-9190

“環境ストレスと光合成炭素代謝”についてのサテライト・シンポジウムが国際光合成会議のすぐあとに“Have a fruitful discussion at beautiful seaside Kashikojima”というスローガンのもとに光合成炭素代謝に興味のある研究者が集りインフォーマルでインテンシブかつアーギュメンタティブな討論を持つ場としてサテライト・シンポジウム委員会主催、帝京大学等の後援で企画されています。7月にはファースト・サーキュラーができる予定です。興味のある方は白井まで連絡して下さい。ファースト・サーキュラーが出来しだいお送り致します。

実行委員会：白田秀明（帝京大学医学部），石井龍一（東京大学農学部）

金井龍二（埼玉大学理学部），鮫島宗明（農水省生物研）

横田明穂（大阪府大農学部）

Molecular Structure and Regulation of Photosynthetic Pigment Systems

日 程：1992年8月27日 - 30日

場 所：関西学院大学セミナーハウス（兵庫県 三田市）

予定参加者数：国内外合計 100名以内（すでに国外から 20 - 30名の参加申し込みがあります）

オーガナイザー：高宮建一郎（東京工業大学 生命理工学部）

三室 守（基礎生物学研究所 細胞エネルギー変換）

このミーティングでは主に、色素系のバイオゲネシス、色素-タンパク複合体の構造、エネルギー移動、アンテナ色素と反応中心との相互作用などについての発表と討論が行なわれる予定です。

Molecular Mechanism of Nitrate Assimilation in Plants

日 程 : 1992年8月28-29日
場 所 : 名古屋地区
予定参加者 : 30
連絡先 : 464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学 農学部 杉山達夫

このミーティングでは主に、硝酸塩やアンモニウム塩の吸収、同化、および窒素-炭素代謝調節に関する分子生物学的・生化学的研究経過の発表と討論が行なわれる予定です。

第9回国際光合成会議個人協賛金拠出のお願い

上記の通り1992年(平成4年)8月30日から9月5日までの7日間、名古屋国際会議場において第9回国際光合成会議が日本学術会議と日本植物生理学会の共同主催で開催されることになりました。

今更申し上げるまでもなく光合成が人類の食糧やエネルギー、さらに地球環境と密接な関係をもっていることから、光合成研究が21世紀の人類の生存と深い関わりをもつようになってきました。このためこれ迄のように世界の限られた地域にとどまらず、世界のすべての地域で光合成研究を進展させることがますます必要になり、今回、アジアで初めて開催される本会議の意義は非常に大きいと考えられます。

本国際会議のファーストサーキュラーに対する反応からみて国内からの参加者を含め本会議は1,600名規模の国際会議になると予想しています。この会議の運営に必要な経費は教育・研究活動を阻害しない範囲でのボランティア活動によって低く抑えるよう関係者一同努力致しておりますが、1.会議準備費(人件費、旅費、および借料など)、2.会議運営費(会場借料、レセプション経費、外国人旅費および滞在費の補助など)、3.事後処理費など計1億5800万円が必要と推算しています。

本来このような国際会議は参加者の登録費など自己資金で全ての費用をまかなうべきですが、参加者登録費については、特に海外からの参加者は旅費などの為すでに相当に出費があることから出席者が個人で負担できる金額には、国際習慣上から見ても実質上限度があり、今回予定している4万円以上にすることは困難です。またアジアで初めて開催される本会議に発展途上国からの参加希望者が多数あり、地球のすべての地域での光合成研究の発展のためこれらの人々に対する経費の援助を国際光合成委員会からも強く要請されています。このため、総経費のうち自己資金でまかないきれない金額は6000万円になると推定しています。そこでこの金額をどうしても法人、団体、個人からのご援助にたよらざるを得ない状態になっています。

募金委員会といたしましては上記金額の要請をうけて、委員一同あらゆる伝手を通じて、関係会社、法人、団体に本会議協賛金の拠出をお願いしております。しかしながらこれ迄日本で開かれた国際会議の例からも、研究者の乏しい(失礼!)財布の中からも協賛金を拠出しているとの実績を作った上で関係会社、法人、団体をお願いしなければ寄付を頂けないのが実情であります。

つきましては、諸事多端の折から誠に恐縮に存じますが、国際光合成会議の目的を達成し有益な成果をあげるため、上記の事情をご賢察頂き、下記要領にて協賛金についてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 第9回国際光合成会議への協賛金は1口1万円とし1口以上何口でも結構です。個人寄付が500万円以上であることが関連会社、法人、団体に寄付をお願いする上で望ましいため、教授の先生方で5口、助教授の先生方で3口を一応の目安として先生方に応分の拠出をお願い申し上げます。

2. この個人寄付については学術振興会が寄付受入団体となり、大蔵省に免税申請を致します。これによって寄付して頂いた金額から1万円を差引いた金額の寄付金控除をうけることができ、年度末に確定申告することによって税金の還付を受けることができます。

3. 免税の関係で学術振興会に実際に入金して頂くのは本年9月以降になります(分割払いも可)。その時に改めて入金方法などお願いさせていただきますが、関係会社、法人、団体への寄付依頼に際して研究者の個人寄付の額を提示して、われわれ研究者側の努力を示す必要があります。そのため同封の別紙に、国際光合成会議への協賛金として拠出して頂ける口数をご記入の上、同封の封筒にてインターグループ(本国際会議のコーディネーター)に個人協賛金予約をお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

平成3年6月

光合成研究会会員各位殿

第9回国際光合成会議

| | |
|----------|-----------------------|
| 組織委員委員長 | 村田紀夫 (基礎生物学研究所) |
| 募金委員会委員長 | 浅田浩二 (京都大学食糧科学研究所) |
| 同 副委員長 | 石井龍一 (東京大学農学部) |
| 同 副委員長 | 井上頼直 (理化学研究所) |
| 同 副委員長 | 鮫島宗明 (農林水産省農業生物資源研究所) |
| 同 副委員長 | 杉山達夫 (名古屋大学農学部) |

第11回国際光生物学会議について

1992年9月7日から12日まで第11回国際光生物学会議が国立京都国際会館で開かれます。この光生物学会議は日本学術会議と日本光生物学協会の主催で開催されますが、日本光生物学協会は日本植物生理学会、日本植物学会、日本農芸化学会、日本化学会、光化学協会などとともに光合成研究会も構成員となっている複合組織です。本会からは京都大学理学部の加藤哲也氏が日本光生物学協会の委員として運営に参加しています。加藤先生からの連絡によりますと、第11回国際光生物学会議には国外から光合成関係の研究者がすでに多数参加申し込みをしていますので、日本からも積極的に参加申し込みをしてほしいとのことです。

参加申し込み先

Prof. Mituo Ikenaga, Secretariat
11th International Congress on Photobiology
Radiation Biology Center
Kyoto University
Yoshida-konoe-cho, Sakyo-ku
Kyoto 606

光合成研究会 1991年-1992年 役員
会長 西村 光雄 (九州大学 理学部)
幹事 岡山 繁樹 (九州大学 教養部)
幹事 高宮建一郎 (東京工業大学 生命理工学部)
日本光生物学協会への委員
加藤 哲也 (京都大学 理学部)

ニューズレター (光合成研究会会報) に載せる原稿をお寄せください。会合の案内、研究や研究費についての情報、提案、意見交換、質疑 (「誰か教えてくれ!」)、広告 (意見広告、製品広告) などを歓迎します。会報はなるべく頻繁に発行しますので、気軽に利用していただきたいと思えます。ただ、ニューズレターの入力のための人手が不足していますので、原稿が長い (原稿用紙2枚以上) 場合には紙に打ち出したものに文書ディスクを添えていただければ助かります。PC-9801 で扱える MS-DOS テキスト・ファイルか、松、一太郎などの文書フォーマットのディスクであれば、3、5、8 インチいずれでも構いません。

会費納入のお願い

この会の運営のためには会員の皆様にあまご負担をかけずにすむよう努力しますが、年会費として 1000 円をお願いいたします。1989 年以降の会費が未納になっておられる方は下記に郵便振替でご送金いただければ幸いです。1992 年までは会費の変更をしなくてすむと思えますので、数年分お送りいただいても結構です。

福岡 4-69648 光合成研究会

日本光合成研究会会則

第1条 名称

本会は日本光合成研究会 (The Japanese Association for Photosynthesis Research) と称する。

第2条 目的

本会は光合成の基礎及び応用分野の研究発展を促進し、研究の交流を深めることを目的とする。

第3条 事業

本会は前条の目的を達成するために、年会、シンポジウムの開催などの事業を行う。

第4条 会員

1. 定義

本会の目的に賛同する個人は、登録手続きを経て会員になることが出来る。又、団体、機関は賛助会員になることができる。

2. 権利

会員は本会の通信及び刊行物の配布を受けること、本会の主催する行事に参加することが出来る。会員は、会長を選挙すること、及び役員に選出されることが出来る。

3. 会費

会員及び賛助会員は所定の年会費を納めなければならない。

第5条 役員

本会の役員として会長及び幹事若干名をおく。会長は選挙により会員から選出する。幹事は会長が委嘱する。役員任期は選出の翌年から2ケ年とするが、2期を超えて重任することは出来ない。その他、必要に応じて専門委員をおくことが出来る。

第6条 幹事会

幹事会は会長と幹事をもって構成され、会長がこれを招集し議長となる。幹事会は本会の運営に関する事項を審議決定する。

第7条 総会

総会は原則として年1回、年会又はシンポジウム開催の際に会長が招集し、出席会員をもって構成する。議長は出席会員から選出される。幹事会は総会においては次の事項を報告し、その承認をうける。

- 1) 前回の総会以後に幹事会で議決した事項
- 2) 前年度の事業経過及び会計報告
- 3) 当年度及び来年度の事業計画
- 4) 会則の変更
- 5) その他の重要事項

第8条 会計年度

本会の会計年度は1月1日から同年12月31日までとする。

付則

第1 本会の事務所は会長が幹事会の了承を得て定める。

第2 役員を選出

役員は任期満了の年に会長の選挙を行う。この選出にあたり、幹事会は若干名の候補者を推薦することが出来る。

第3 年会費は個人会員1,000円、賛助会員一口50,000円とする。

第4 この会則は昭和62年7月1日から施行する。

第5 現代表幹事及び幹事の任期は、本規定により行われる役員選出の結果発表日までとする。

次号の予告

どんな原稿が集まるか分かりませんので次号予告はできませんが、会員名簿は載せる予定です。勤務地、所属機関などに変更があった方は葉書などで会までお知らせください。現時点では名簿の整備が完全ではないため、今回の会報について誤配、遅配などありましたらお許してください。

光合成研究会会報 1991年 第1号 1991年6月20日発行

812 福岡市 東区 箱崎
九州大学 理学部 生物学教室 植物生理学講座内
光合成研究会

振替貯金口座 福岡 4-69648 光合成研究会
